



資料 1

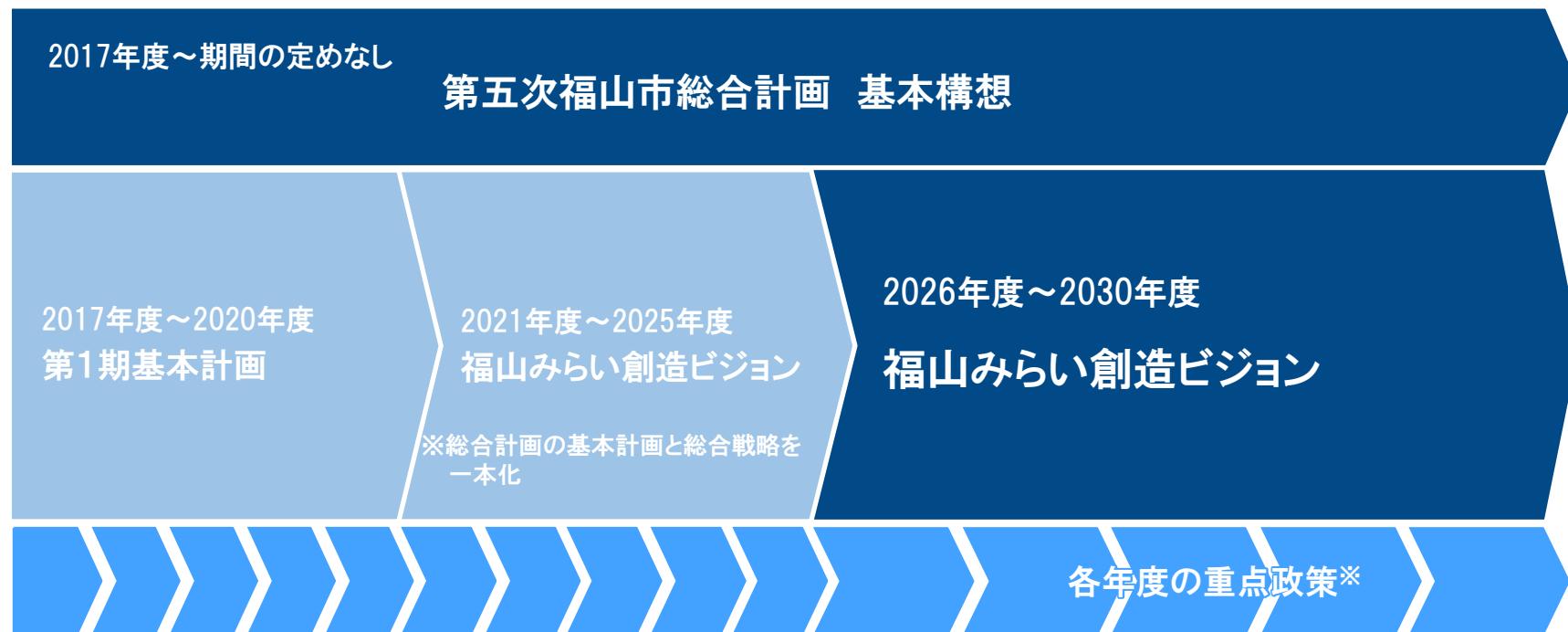
福山みらい創造ビジョン(素案)

目次

I 計画策定の趣旨と期間

○本ビジョンは、市政を総合的かつ計画的に進めるための指針として、2030年度のめざす姿やその実現のための取組の方向性を体系的に示したもので、また、総合計画の基本計画と総合戦略を一本化したものであり、部門別計画の上位に位置します。

【計画期間】2026年度～2030年度（5年間）



※各年度の取組については、社会の情勢変化に柔軟に対応していくため、毎年度、重点政策として打ち出します。

II 前計画の振り返り

(1) 目標人口

基準値	最新値	目標値
46.5万人 (2015年)	46.1万人 (2020年)	46.6万人 (2025年)

○国勢調査による人口は、少子化の進行や若者・女性の転出超過の拡大などから、2015年の46.5万人をピークに減少局面に入り、2020年は46.1万人となっています。

○また、国立社会保障・人口問題研究所の推計では2025年に44.4万人となる見込みであり、目標値を下回る状況にあります。

(2) 特に注視してきた指標の達成状況

福山駅周辺のウォーカブルエリア内の歩行空間の割合		
基準値	最新値	目標値
約50% (2020年度)	約57% (2024年度)	約60% (2025年度)
2020年度の約50%から増加しており、2025年度には目標値の達成が見込まれます。		

合計特殊出生率		
基準値	最新値	目標値
1.60 希望出生率との差 0.3 (2019年)	1.46 希望出生率との差 0.44 (2023年)	1.90との差 の縮減 (2025年)
全国（1.20）や広島県（1.33）と比較すると高い水準を維持しているものの低下傾向にあるため、市民希望出生率（1.90）※との差は縮まっていません。 ※2020年福山市の新しいまちづくりのアンケートを基に算出		

人口10万人当たりの医師数 (産科・産婦人科医師、小児科医師)		
基準値	最新値	目標値
<u>産科・産婦人科医師数</u> 8.9人 (2018年度)	9.4人 (2022年度)	9.5人 (2025年度)
<u>小児科医師数</u> 10.8人 (2018年度)		
12.1人 (2022年度) 11.4人 (2025年度)		
・人口10万人当たりの産科・産婦人科医師数は、全国（9.5人）と同等、広島県（8.9人）と比較すると高い水準※にあり、近年の増加傾向を踏まえると、2025年度には目標値の達成が見込まれます。 ※分娩取扱医師については、医師偏在指標（医療需要や医師の年齢、性別などを考慮し、医師の多寡を客観的に示すための指標）で見ると全国の二次保健医療圏の下位1/3に位置しており、広島県全体の数値よりも低い状況にあります。		
・人口10万人当たりの小児科医師数は、2022年度に目標値を上回っているものの、全国（14.2人）や広島県（13.4人）と比較すると低い水準にあります。		

市民一人当たりの分配所得		
基準値	最新値	目標値
2,948千円 (2017年度)	3,087千円 (2022年度)	3,039千円 (2025年度)
2022年度の数値は既に目標値を上回っているものの、全国（3,274千円）と比較すると低い水準にあります。		

総合防災訓練の参加人数		
基準値	最新値	目標値
34,022人 (2019年度)	42,335人 (2025年度)	60,000人 (2025年度)
コロナ前の水準を超えて増加していますが、目標値は達成できていません。		

III 現状と課題

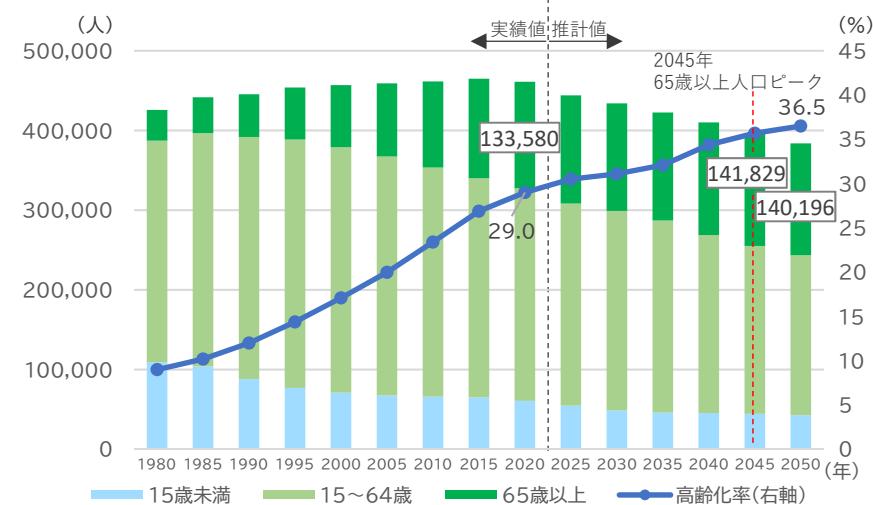
1 人口

本市の人口推移等は次のとおりです。

【現状】

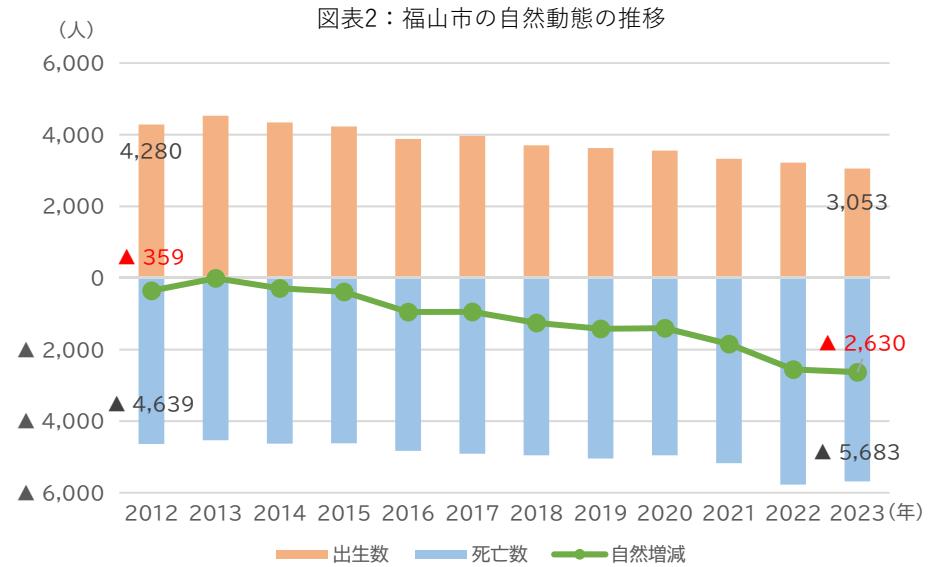
- 本市の人口は、2045年には40万人を下回る推計となっています。年齢3区分で見ると、年少人口・生産年齢人口は今後も減少し続け、高齢者人口は2045年まで増加した後に減少に転じます。年少人口・生産年齢人口の減少幅が大きいため、高齢化率は上昇が続く見込みです。（図表1）
- 自然動態を見ると、死亡数が出生数を上回る状態が続いている。このうち、出生数については、10年間で3割以上減少しています。（図表2）
- 社会動態では、日本人の転出超過が拡大傾向にあります。内訳を見ると、転入者数が減少している一方で、転出者数は高止まりしており、特に若者・女性の転出超過が顕著となっています。（図表3）
- 外国人住民は増加が顕著であり、特に技能実習や特定技能の在留資格で滞在している人が多い状況です。一部の製造業や介護サービス事業所等では既に欠かせない人材となっており、今度も増加していくことが予測されます。（図表4）

図表1：福山市の将来人口推計



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」
※2020年までは国勢調査の実績値（年齢3区分人口は年齢不詳を按分した数値）、2025年以降は推計値

図表2：福山市の自然動態の推移



出典：福山市「福山市人口動態」 4

【課題】

- 今後は、少子化の流れを緩やかにするため、企業と連携した働き方改革の推進や男女間の家事負担の偏りの解消など、結婚や出産、子育ての希望がかなえられるまちづくりを進めていきます。また、若者や女性が福山に住み続けたい、帰ってきたいと思えるよう、進学と仕事の選択肢の充実や子育てしやすい環境づくり、都市のにぎわい創出などに取り組んでいく必要があります。
- 同時に、人口規模が縮小しても安心して暮らせる生活環境や活力ある地域経済を維持していくため、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを引き続き進めていく必要があります。

図表3：福山市の社会動態の推移



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」
※国内移動・日本人のみ

図表4：福山市の外国人人口の推移



出典：福山市「住民基本台帳（各年9月末時点）」

2 市政を取り巻く諸課題

市政を取り巻く諸課題について、「子ども・若者」「地域経済」「都市基盤」「医療・福祉」「ばらのまちづくり・文化・スポーツ」「地域社会」「安心・安全」の7つ分野ごとに状況を整理しました。

(1) こども・若者

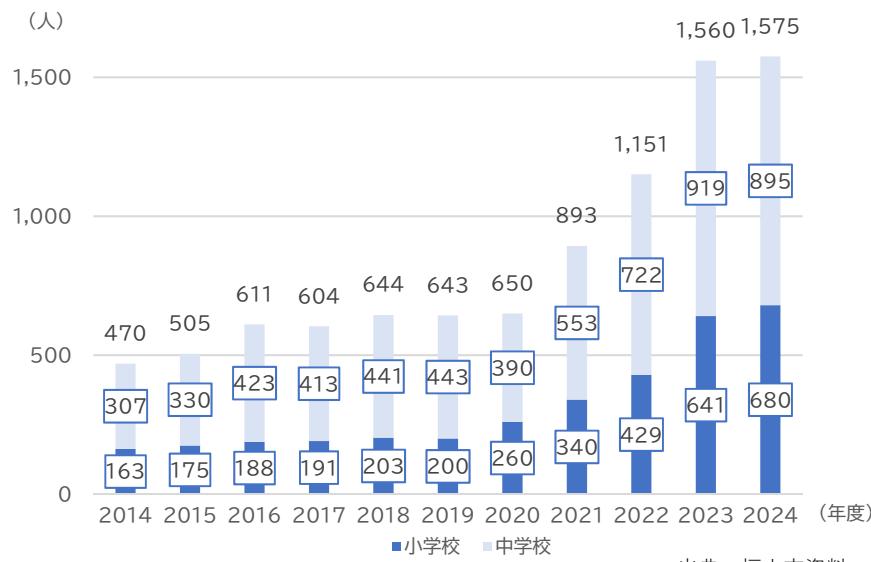
【子ども】

- 次代を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、妊娠期からの「切れ目のない支援」のほか、子どもの意見の尊重を柱とし、社会全体で子どもを支えていく「子どもまんなか社会」の実現を進めています。
- 学校教育においては、学力向上に向けた取組に加え、不登校や特別支援学級の児童生徒数が増加していることから、インクルーシブの視点を踏まえた多様な学びの場の充実にも注力しています。また、児童生徒数が減少する中でも一定の集団規模で学び合える教育環境の確保にも計画的に取り組んでいく必要があります。（図表5）
- 家庭の経済状況は、子どもの学力や自己肯定感を始め、進学や就職など将来の選択に影響を与える可能性があります。貧困の連鎖を断ち切るため、困難を抱える子ども・若者への支援に取り組んでいく必要があります。

【若者】

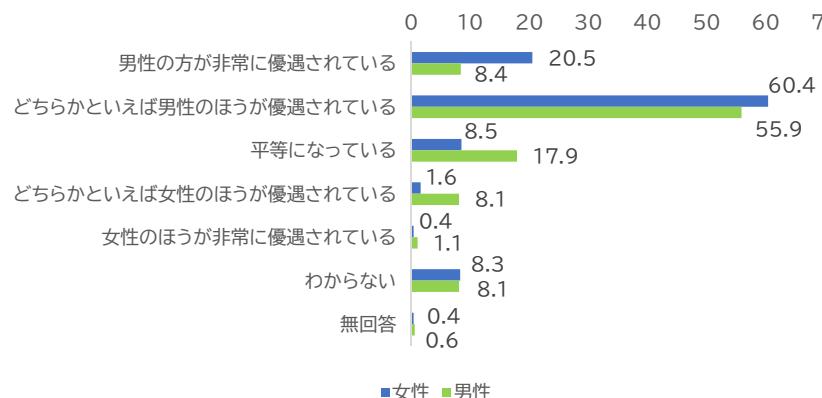
- 企業や地域、家庭に残るジェンダーギャップ（性別の違いによる格差）や固定的な性別観に関するアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）が、若者や女性が市外へ転出してしまう要因の1つとなっています。
- 性別によって望まない役割を押し付けられることがないよう、各界各層の意識改革に取り組み、男女の賃金格差の是正や男性の育児参画の促進などを進める必要があります。（図表6）

図表5：福山市立学校の不登校の児童生徒数の推移



出典：福山市資料

図表6：福山市における社会全体での男女の平等感 (%)



出典：福山市資料

(2) 地域経済

【中小企業】

○市内の中小企業を取り巻く環境は、人手不足に加え、物価高騰の長期化や国際情勢の不確実性などによって厳しさを増しています。また、市内企業の生産性や一人当たり所得は、全国や広島県と比較して低い状況にあります。(図表7・8)

○グリーンな企業プラットフォームを通じて女性や高齢者、外国人など多様な人材の雇用促進に引き続き取り組んでいくとともに、デジタル技術の導入促進によって生産性の向上につなげていきます。加えて、企業誘致の促進や起業・創業支援、経済成長を支える基盤整備にも取り組み、中小企業の賃上げの実現につなげていきます。

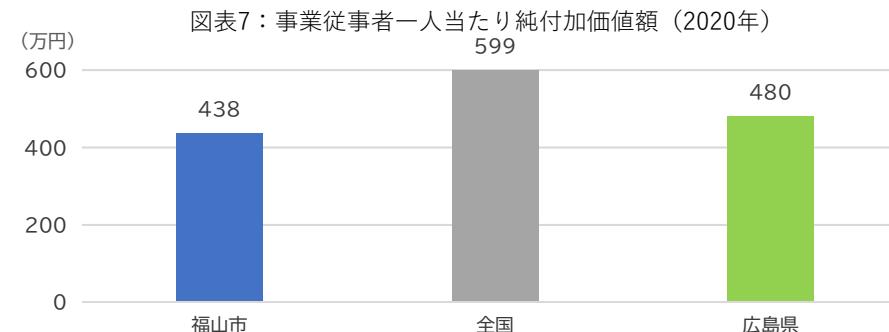
【農林水産業】

○農林水産業については、食・健康・環境などの日常生活に直結する重要な産業の1つです。担い手の育成・確保やブランド化による付加価値の向上を図っていく必要があります。また、備後圏域の食生活の安心・安全を支える福山地方卸売市場の老朽化が進んでおり、選ばれる市場となるよう再整備を支援していきます。

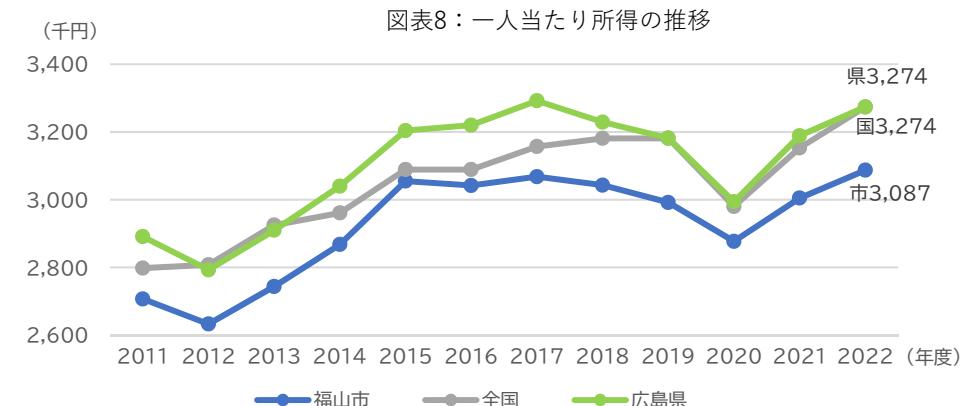
【観光・MICE】

○総観光客数は依然としてコロナ禍前の水準まで回復していないため、観光資源の磨き上げや南部地域をモデルエリアとした周遊観光の推進などに取り組み、更なる観光誘客につなげていきます。(図表9)

○MICE誘致については、ユニークベニューを生かしたエリアMICEの推進やボランティアの活躍促進に向けた制度構築などにより、受入環境を充実させていきます。



出典：総務省・経済産業省「令和3年経済センサス（活動調査）」



出典：広島県「令和4年度広島県県民経済計算結果」※

広島県「令和4年度広島県市町民経済計算結果」※

※推計方法の見直しや新しい統計調査結果の公表などにより、過去に遡って改定が行われるため、過去の公表値とは数値が異なる場合があります。



出典：広島県観光客数の動向

(3) 都市基盤

【福山駅周辺のにぎわい再生】

- 三之丸町地区の再開発のほか、駅北口の無電柱化や歩道整備などに取り組んできたことで、ウォーカブルエリア内の歩行空間割合の増加や地価公示価格の上昇などエリア価値が向上しています。
- 福山駅周辺のにぎわい再生の核となる駅前広場については、備後圏域の玄関口にふさわしい、交通結節機能と都市の広場機能が融合した空間となるよう再整備に向けて引き続き取り組みます。加えて、伏見町周辺エリアを始めとする駅周辺一帯の更なる魅力向上にも努めています。 (図表10)

【全世代交流型エリアの創造】

- エフピコアリーナふくやまや芦田川かわまち広場の一帯では、(仮称) まちづくり支援拠点施設の供用開始に加え、(仮称) 子ども未来館の整備や大阪・関西万博パビリオン「いのちの遊び場 クラゲ館」の移築を予定しており、健康・スポーツ・レジャー・防災・交流・教育・福祉といった多様な機能を有する備後圏域の新たな交流拠点が誕生します。 (図表11)
- 当エリアと福山駅周辺を一体として、中心市街地のにぎわいを更に高め、都市の発展をけん引する都心核の形成をめざしていきます。

【地域の拠点づくり】

- 本市には、地域固有の歴史、文化、コミュニティ、自然、環境が数多くあり、今まで住民により守り、引き継がれてきました。人口減少社会においても、都市の活力を維持していくためには、特色ある地域ならではの魅力を見つめなおし、その価値を高めていくことが重要です。
- 現在、神辺、松永、新市、沼隈、内海、駅家の6地域において、意見交換と取組の実践を重ねることで住民と行政が共通認識を持って地域価値の向上をめざしていく「地域の拠点づくり」に取り組んでいます。6地域以外からも参加できる意見交換の場をつくるなど、他の地域にもこの取組を波及させていきます。

図表10：福山駅前広場再編実証実験の様子



図表11：全世代交流型エリアのイメージ図

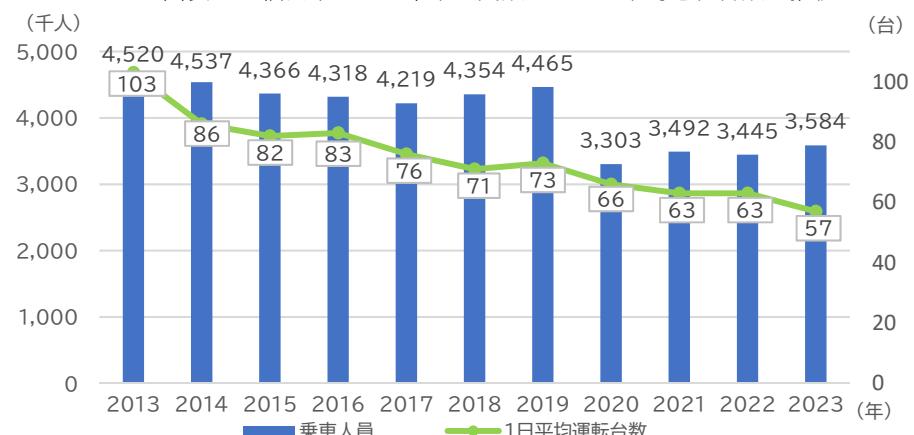


※イメージ図であり、今後変更の可能性があります。

【移動手段】

- 路線バスについては、利用者の減少や乗務員不足などから、減便等の対応をせざるを得ない状況になっています。地域の移動手段を維持するため、バス共創プラットフォームを通じた乗務員の確保やニーズに合った路線の再構築に加え、オンデマンド乗合タクシーの導入地区の拡大や自動運転バスの商用運行の実現などにも取り組んでいく必要があります。 (図表12)

図表12：福山市のバス乗車人員数と1日の平均運転台数の推移



出典：福山市「統計ふくやま」

【渋滞解消・産業インフラ】

- 主要な幹線道路で慢性的な渋滞が発生し、輸送の定時制に影響を及ぼすなど、経済的な損失を招いています。引き続き国・広島県と連携して幹線道路網の整備を促進していきます。 (図表13)
- 福山北産業団地第2期事業による区画の分譲が全て決定するなど、企業の投資意欲は依然として高い状況にあります。今後も企業ニーズに応えられるよう、新たな産業用地の確保などに取り組んでいく必要があります。

図表13：福山沼隈道路



(4) 医療・福祉

【医療】

○福山・府中二次保健医療圏は、全国や広島県と比較して医療人材が少ない状況です。このため、県と連携して医師や看護師を始めとする医療人材の確保に引き続き取り組んでいく必要があります。

○福山市民病院の機能強化や備後圏域内における医療機関の機能分化なども進め、良質かつ適切な医療を効率的に提供できる体制を確保していきます。 (図表14・15)

【福祉】

○健康寿命は近年伸びており、平均寿命との差が縮小傾向にあります。一方で、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加しています。今後も、住み慣れた地域で健康に暮らしていくよう、フレイル予防を始め、介護予防や生活支援の充実に努めます。また、高齢化の進行に伴う介護需要の更なる増加を見据え、介護・福祉人材の確保・育成にも取り組みます。 (図表16)

○医療的ケア児を始め、様々な障がいのある人やその家族への支援を充実させるとともに、障がい者に対する地域や企業の理解を更に深めることで、誰もが共に支え合う地域共生社会の実現につなげていく必要があります。 (図表17)

図表14：医師偏在指標一覧（2022年）

区分	医師	小児科医師	分娩取扱医師
全国	255.6	115.1	10.6
広島県	254.2	101.1	8.6
福山・府中二次保健医療圏	201.3	84.4	7.6

出典：厚生労働省「医師偏在指標」

図表15：人口10万人当たりの看護師数（2024年度）

区分	看護師
全国	1,101.1人
広島県	1,281.0人
福山市	1,138.8人

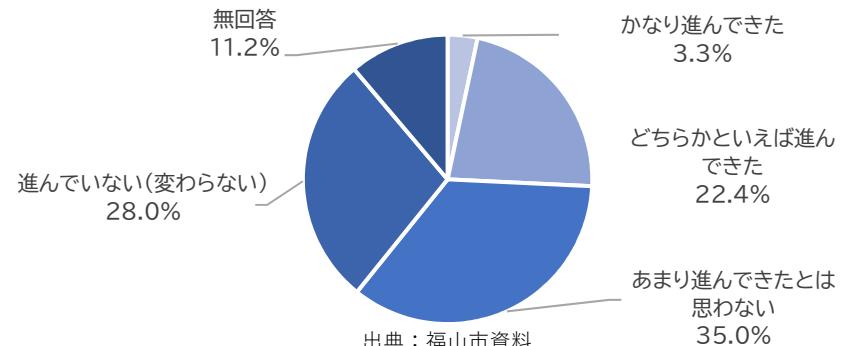
出典：厚生労働省「衛生行政報告例」
広島県「保健師、助産師、看護師及び准看護師の業務従事者届」

図表16：福山市の平均寿命と健康寿命の推移



出典：福山市資料

図表17：福山市の障がいのある人に対する地域の理解度



出典：福山市資料

(5) ばらのまちづくり・文化・スポーツ

○2025年5月に開催された「世界バラ会議福山大会」では、福山が「世界一のばらのまち」であるという評価を受けました。今後は、大会のレガシーを更に発展させ、市民と共に新たなばらのまちづくりを進め、ばらを中心とした都市ブランドを確立していくことで、市民の誇りや国内外からの注目度の向上につなげていきます。（図表18）

○福山城築城400年記念事業において、天守外観の復元や博物館リニューアルなど令和の大普請に取り組むとともに、福山城の歴史的価値を広く発信してきました。引き続き、福山城の伏見櫓や筋鉄御門などの国宝化に向けた取組を進めていくとともに、各地域の歴史資源の更なる魅力向上に取り組み、市民のふるさと福山への誇りと愛着の向上につなげていきます。また、ばらのまち福山国際音楽祭やふくやま美術館等への児童生徒の招待など、本物の芸術文化を体験できる機会も更に充実させていきます。（図表19）

○竹ヶ端運動公園庭球場と緑町公園屋内水泳場の整備のほか、ライフステージに応じたスポーツの実施促進やハイレベルな大会の誘致などに取り組んできました。引き続き、市民がスポーツを楽しむ機会を充実させていくことに加え、施設の計画的な再整備にも取り組んでいきます。（図表20）

図表18：世界バラ会議ディツア（福山市園芸センター）



図表19：福山城築城400年記念事業



図表20：竹ヶ端運動公園庭球場と緑町公園屋内水泳場



(6) 地域社会

【地域コミュニティ】

○多様な主体の新たな連携が生まれる拠点「(仮称)まちづくり支援拠点施設」については、2026年9月の供用開始をめざし、現在整備を進めています。あわせて、当施設に入居する団体などで構成する「まちづくりネット」を立ち上げ、新たなコミュニティづくりに向けた議論を進めています。

○自治会(町内会)の加入率が低下するなど地域のつながりが希薄化する中にも関わらず、持続可能な地域コミュニティをめざして先進的に取り組む地域の創出や横展開を図っていきます。また、各種ボランティアの活躍促進に向けた制度構築や地域自治組織の負担軽減などにも取り組んでいきます。(図表21)

【人権・多様性】

○全ての市民の人権が尊重され、多様性が認められる社会の実現に向け、様々な機会を通じて人権教育や人権啓発に取り組んでいます。新たな人権問題にも対応する中で、あらゆる機会を通じて人権意識の向上に努めています。

○増加している外国人住民に対しては、日本語や様々なルールを学ぶ機会を充実させるとともに、地域や企業内での相互理解などを促進していくことで、多文化共生社会の実現につなげていきます。

【環境】

○福山未来エナジー株式会社と連携した再生可能エネルギーの地産地消の推進や温室効果ガス排出量の削減に資する福山ローズエネルギーセンターの稼働など、SDGsの達成にもつながる脱炭素化の取組を進めています。(図表22)

○今後も、カーボンニュートラルの実現に向けて市民や企業などと共に更なる省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入を進めていくとともに、循環型社会の構築や大気・水・土壤といった地域環境の保全などに努めています。

図表21：福山市の自治会(町内会)加入世帯数と加入率の推移



出典：福山市資料

図表22：福山ローズエネルギーセンター



(7) 安心・安全

【防災・減災】

○平成30年7月豪雨を受け、5年間かけて集中的に取り組んできた「抜本的な浸水対策」が概成し、大雨への備えが強化されました。一方で、近年、台風や大雨による気象災害が激甚化・頻発化しており、浸水対策の更なる強化に取り組んでいく必要があります。また、南海トラフ巨大地震など大規模地震の発生にも備えていきます。
(図表23)

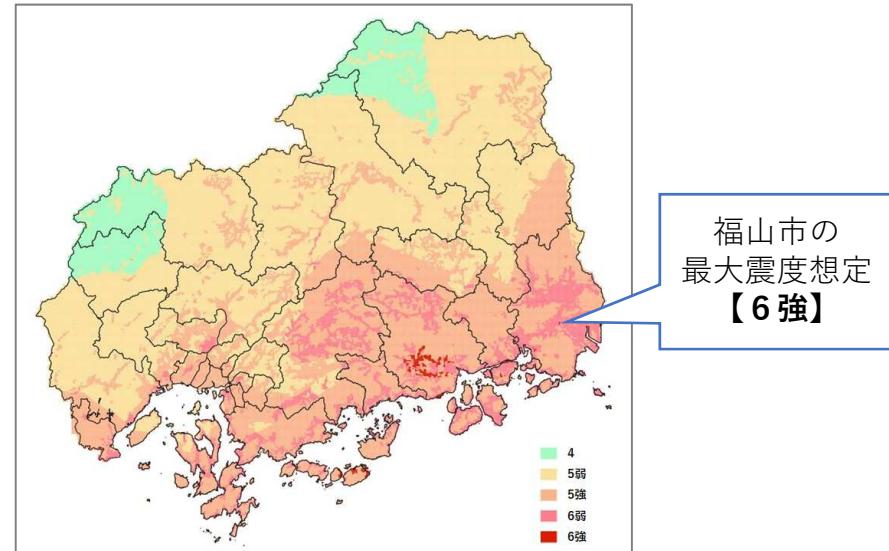
○災害に迅速かつ適切に対応できるよう、家庭での備蓄に関する啓発など市民の防災意識の向上に加え、スフィア基準を踏まえた避難所の環境改善に取り組んでいきます。

【防犯・交通安全】

○2021年までは減少傾向にあった刑法犯認知件数が近年増加しています。高額の特殊詐欺被害も発生していることから、地域防犯力を更に強化していく必要があります。
(図表24)

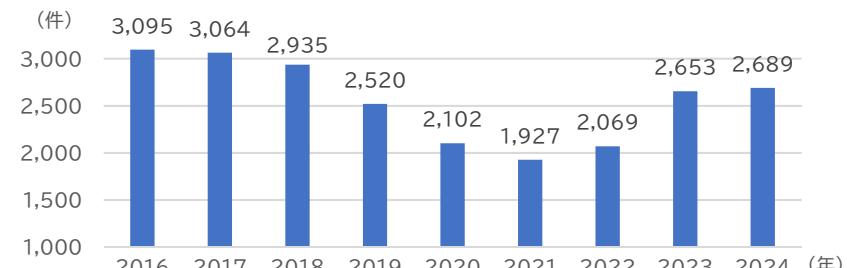
○交通事故発生件数は長期的に見ると減少傾向にある一方で、死亡者数は大きく減少していません。交通安全教育の推進や通学路の安全対策などに引き続き取り組んでいきます。
(図表25)

図表23：南海トラフ巨大地震震度想定



出典：広島県「広島県地震被害想定調査結果（概要版）（令和7年10月）」

図表24：刑法犯認知件数



出典：福山市資料

図表25：交通事故発生件数



出典：福山市資料 13

(1) 基本的な考え方

- これまで、備後の中核都市として、人口減少対策を始め、福山駅周辺の再生やばらのまちづくりのほか、中小企業へのデジタル技術の導入促進、高齢者の介護予防や生活支援、脱炭素化の推進、そして抜本的な浸水対策や幹線道路網の整備などを着実に進めてきました。
- とりわけ、都市の“顔”である福山駅前と福山城の再生やばらのまちづくりによる都市魅力の向上、福山ネウボラによる子育てしやすいまちづくりについては果断に挑戦し続けてきました。
- その結果、福山駅前では三之丸町地区の再開発の完了などによってエリア価値が向上したほか、福山城の令和の大普請に取り組んだことで日本100名城にふさわしい福山城が再現され、福山駅周辺の景色が大きく変わりました。世界バラ会議福山大会は成功裏に開催することができ、国内外から「世界一のばらのまち」として評価されました。また、福山ネウボラでは、相談窓口「あのね」の設置を始め、第2子以降の保育料無償化、ネウボラセンターの開設などに取り組んできたことで、子育て家庭の相談支援体制が充実され、経済的な負担も着実に軽減されつつあります。
- 一方で、「Ⅲ 現状と課題」に掲げているように、出生数は減少し、女性を中心に若者の転出超過は高止まりの状態が続いている。加えて中心市街地と比べて各地域でのにぎわいが減退しているほか、企業の人材不足や幹線道路の慢性的な渋滞、地域のつながりの希薄化、自然災害の激甚化・頻発化などの課題もあります。
- 少子化と若者・女性の転出超過は市民生活や地域経済に大きな影響を与えることから、今後の5年間においては、まずは、企業など多様な主体と連携してあらゆる施策を総動員する「希望の都市づくり－福山版少子化対策の推進－」と、福山の未来を担う次の世代が自信と誇りを持てる「若者や女性に選ばれる都市づくり」に集中的に取り組んでいきます。
- また、安心な市民生活と活力ある地域経済を実現するために、「こども・若者」「地域経済」「都市基盤」「医療・福祉」「ばらのまちづくり・文化・スポーツ」「地域社会」「安心・安全」の7つの分野の課題にも挑戦し続けます。

(2) めざす姿

希望、安心、活力ある備後の中核都市

(3) めざす姿を実現するための諸施策

こども・若者

- 出会いと結婚の後押し
- 妊娠・出産への不安の軽減
- ジェンダーギャップの解消とアンコンシャス・バイアスの変革 など

地域経済

- グリーンな企業プラットフォームの充実
- 企業の稼ぐ力の向上
- 新たな産業の創出 など

都市基盤

- 福山駅周辺にぎわい再生
- 全世代交流型エリアの創造
- 地域の拠点づくり など

医療・福祉

- 医療提供体制の確保
- 高齢者の健やかな暮らしの確保
- 障がいのある人の安心な生活と自立支援 など

ばらのまちづくり・文化・スポーツ

- 世界バラ会議を契機とした新たなばらのまちづくり
- 歴史・文化の薫るまちづくり
- スポーツの振興

地域社会

- 地域の拠点づくり（再掲）
- 持続可能な地域コミュニティの形成
- 多様性社会の推進 など

安心・安全

- 防災・減災の推進
- 上下水道施設の整備
- 消防・救急体制の強化 など



少子化と若者・女性の転出超過に歯止めをかけるための重点プロジェクト

重点プロジェクト1

希望の都市づくり －福山版少子化対策の推進－

- 働き方改革による家族時間・自分時間の確保
- 結婚・出産を望む人への支援
- こどもと子育て家庭への支援

重点プロジェクト2

若者や女性に選ばれる都市づくり

- 学びと仕事の選択肢の充実
- 一人一人に寄り添った子育て・教育環境の提供
- にぎわいあふれる都市づくり
- “ばら”による都市のブランド価値の向上

Ⅴ めざす姿の実現に向けて

1 重点プロジェクト

市民生活と地域経済に大きな影響を与える少子化と若者・女性の転出超過に歯止めをかけるため、2つの重点プロジェクトに5年間集中的に取り組んでいきます。

重点プロジェクト 1 ➤ 希望の都市づくり ー福山版少子化対策の推進ー

取組の方向性

働き方改革による家族時間・自分時間の確保

○グリーンな企業プラットフォームを通じて、働き方改革を推進することで長時間労働を是正し、家族時間と自分時間を確保します。また、意欲的・自律的に働くことができる職場づくりも進めていくことで、働きやすさと働きがいが両立した職場環境を実現します。



【デジタル技術の導入による働き方改革】

結婚・出産を望む人への支援

○個人の価値観の尊重を前提とした上で、多様な出会いの場を提供し、**出会いと結婚を後押し**していきます。また、プレコンセプションケアへの正しい理解の促進など妊娠や出産に向けた支援に加え、福山市民病院における周産期母子医療センターの開設など周産期・小児医療の強化に取り組み、**妊娠・出産への不安を軽減**していきます。



【結婚・出産支援】

こどもと子育て家庭への支援

○相談・手続のオンライン化やプッシュ型の情報発信など子育てを安心で便利にしていくこどもDXを始め、子育てにかかる経済的負担の軽減や質の高い保育サービスの提供に取り組み、**ネウボラセンターを中心とした子育て支援**を更に強化していきます。また、こどもが安心して楽しく遊べ、親同士の交流も生まれることの遊び場の充実を図るなど、子育てへの多様なニーズに対応していきます。



【ネウボラセンターを中心とした子育て支援】

○困難を抱えるこども・若者への支援を充実していくほか、意見の反映や権利の尊重、居場所づくりに取り組み、**こどものウェルビーイングを向上**させます。

重点プロジェクト 2 ▶ 若者や女性に選ばれる都市づくり

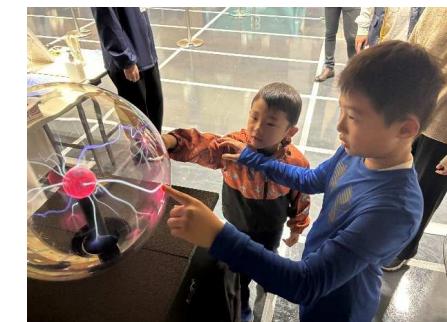
取組の方向性

学びと仕事の選択肢の充実

- 2027年度に福山市立大学情報工学部を開設するとともに、産学官連携による人材育成や課題解決の強化も進めるなど**魅力ある高等教育を提供**していきます。また、（仮称）ふくやま未来大賞の創設などにより、夢の実現に向けて**チャレンジする若者を応援**します。
- グリーンな企業プラットフォーム**を通じて**ジェンダーギャップの解消と固定的な性別観に関するアンコンシャス・バイアスの変革**など働きやすさと働きがいが両立した職場環境を実現するほか、企業誘致や起業・創業支援などに取り組み、若者や女性にとって**魅力ある仕事を創出**します。



【福山市立大学新棟完成イメージ】



【（仮称）子ども未来館展示イメージ】



【かんなべストリートフェス】
(出典：神辺町商工会青年部)



【ばら公園】

一人一人に寄り添った子育て・教育環境の提供

- ネウボラセンターを中心とした子育て支援**を強化し、多様なニーズに対応していきます。
- こどもたちの確かな学力と豊かな心の育成を始め、インクルーシブの視点を踏まえた多様な学びの場の充実や不登校の未然防止と支援など、**全てのこどもたちが成長を実感できる学校教育を推進**します。
- 最新の科学やテクノロジーに触れ、体験を通じて学び、成長する場となる**（仮称）子ども未来館の整備**に取り組みます。

にぎわいあふれる都市づくり

- 備後圏域の玄関口である**福山駅周辺のにぎわい再生**に向け、福山駅前広場の再整備に着手とともに、伏見町周辺エリアを始めとするウォーカブルエリアの魅力向上に取り組みます。
- 旧体育館跡地において（仮称）まちづくり支援拠点施設や（仮称）子ども未来館などの整備を進め、エフピコアリーナふくやまなども含めた一帯を多様な機能を持つ**全世代交流型のエリア**としていきます。また、福山駅前との回遊性を向上させ、一体的な都心核の形成をめざします。
- “地域の拠点づくり”**を本格始動させるとともに、意見交換の場などを通じて取組を波及し、市域全体のにぎわい創出につなげていきます。
- 若者・女性向けのエンターテイメントの充実**として、文化・芸術活動の促進やスポーツの機会の充実に取り組みます。

“ばら”による都市のブランド価値の向上

- 世界バラ会議福山大会のレガシーを発展させた新たなばらのまちづくりを進めていくことで、**都市のブランド力を高め**、市民の誇りや愛着の醸成につなげます。

2 分野別の諸施策

めざす姿の実現に向け、重点プロジェクトを含めた7つの分野における施策を総合的に推進します。

01 こども・若者

- (1) 出会いと結婚の後押し 重点1
- (2) 妊娠・出産への不安の軽減 重点1
- (3) ジェンダーギャップの解消とアンコンシャス・バイアスの変革 重点1・2
- (4) ネウボラセンターを中心とした子育て支援 重点1・2
- (5) こどものウェルビーイングの向上 重点1
- (6) 全てのこどもたちが成長を実感できる学校教育の推進 重点2
- (7) 子ども未来館構想の推進 重点2
- (8) 魅力ある高等教育の提供 重点2
- (9) 若者のチャレンジ応援 重点2

02 地域経済

- (1) グリーンな企業プラットフォームの充実 重点1・2
- (2) 企業の稼ぐ力の向上
- (3) 新たな産業の創出 重点2
- (4) 経済活動を支える基盤整備
- (5) 農林水産業の振興
- (6) 戰略的な観光振興とMICEの推進

03 都市基盤

- (1) 福山駅周辺のにぎわい再生 重点2
- (2) 全世代交流型エリアの創造 重点2
- (3) 地域の拠点づくり 重点2
- (4) 地域公共交通の充実
- (5) 市民生活と経済活動を支える基盤整備

04 医療・福祉

- (1) 医療提供体制の確保 重点1
- (2) 高齢者の健やかな暮らしの確保
- (3) 障がいのある人の安心な生活と自立支援
- (4) セーフティネットの充実

05 ばらのまちづくり・文化・スポーツ

- (1) 世界バラ会議を契機とした新たなばらのまちづくり 重点2
- (2) 歴史・文化の薫るまちづくり 重点2
- (3) スポーツの振興 重点2

06 地域社会

- (1) 地域の拠点づくり（再掲） 重点2
- (2) 持続可能な地域コミュニティの形成
- (3) 多様性社会の推進 重点2
- (4) 環境に配慮したまちづくり
- (5) 快適な生活環境の整備

07 安心・安全

- (1) 防災・減災の推進
- (2) 上下水道施設の整備
- (3) 消防・救急体制の強化
- (4) 防犯・交通安全対策の推進

※各分野の施策は主なものを記載しています。

01 こども・若者



(1) 出会いと結婚の後押し

✓ 多様な出会いの場の提供

- ・出会いの機会の創出と相談体制の構築



【出会いの場の提供】

(2) 妊娠・出産への不安の軽減

✓ 妊娠や出産に向けた支援の充実

- ・不妊・不育症治療費の助成など経済的負担の軽減
- ・プレコンセプションケアへの正しい理解の促進と相談体制の構築

✓ 周産期・小児医療の強化

- ・福山市民病院への周産期母子医療センターの開設（再掲）
- ・産科セミオーブンシステムによる周産期医療連携体制の構築（再掲）
- ・医療版ワーケーションや大学医学部などとの連携による医師確保（再掲）

(3) ジェンダーギャップの解消とアンコンシャス・バイアスの変革

✓ ジェンダーギャップの解消と固定的な性別観に関するアンコンシャス・バイアスの変革

- ・家庭や学校、地域での啓発の推進
- ・企業経営層の意識改革

【目標指標】

希望出生率と合計特殊出生率の差

2024年	0.34	▶ 2030年	縮小
希望出生率 (2024年)	1.80		
合計特殊出生率 (2023年)	1.46		

医師偏在指標（小児科医師・分娩取扱医師）（再掲）

2022年	全国下位 1/3	▶ 2030年	全国下位 1/3からの脱却
小児科	84.4		
分娩取扱	7.6		

社会全体で「男女の地位が平等となっている」と思う人の割合

2021年度 11.8% ▶ 2030年度 25.0%

(4) ネウボラセンターを中心とした子育て支援

- ✓ 妊娠・出産・子育てに関する切れ目のない支援の充実
 - ・ネウボラセンターの本格稼動
 - ・ネウボラ相談窓口「あのね」による子育ての不安軽減
 - ・産前・産後の支援の充実
 - ・子育てをより安心で便利なものとすることもDXの推進（相談・手続のオンライン化、SNSを活用したプッシュ型の情報発信など）
- ✓ 子育てにかかる経済的負担の軽減
 - ・保育料や子ども医療費など子育てにかかる負担の軽減
- ✓ 質の高い保育サービスの提供
 - ・保育人材の確保と保育サービスの質の向上
 - ・おむつのサブスクなど登園負担の軽減（かるがる登園）
 - ・放課後児童クラブの充実
 - ・医療的ケア児などへの安定・継続した支援体制の構築
- ✓ 子どもの遊び場の充実
 - ・インクルーシブ遊具の設置による誰もが楽しめる公園の整備
 - ・交流館へのキッズスペースの設置（再掲）
- ✓ 子育てへの多様なニーズへの対応
 - ・多様化する子育て世代のニーズを踏まえた支援策の構築



【子育てに関する相談支援】

(5) こどものウェルビーイングの向上

- ✓ 困難を抱えるこども・若者への支援
 - ・子どもの貧困対策
 - ・児童虐待防止対策等の更なる強化
 - ・悩みや不安を抱えたこども・若者や家族に対する相談支援体制の充実
- ✓ こども・若者の意見の反映と権利の尊重
 - ・子どもの権利の尊重に向けた意識啓発
 - ・こども・若者への意見聴取
- ✓ こども・若者の居場所づくり
 - ・こども食堂やプレーパークなどへの支援
 - ・若者が交流できる居場所づくり
 - ・交流館へのキッズスペースの設置

【目標指標】

「この地域で子育てしたい」と思う親の割合

2024年度 93.3% ➡ 2030年度 96.0%

「自分の将来について明るい希望がある」と思う子どもの割合

2023年度 86.2% ➡ 2030年度 95.0%

(6) 全てのこどもたちが成長を実感できる 学校教育の推進

✓ 確かな学力と豊かな心の育成

- ・学力向上プロジェクトの推進
- ・子どもの芸術文化体験プロジェクトの充実

✓ 多様な学びの場の充実

- ・イエナプラン教育校や特認校などの教育内容の充実
- ・地域資源や市内企業を学ぶ機会の充実
- ・生成AIなどデジタル技術に触れる機会の創出

✓ 不登校の未然防止と支援の充実

- ・校内外のフリースクールなどにおける個に応じた支援

✓ こどもの学びを支える教育環境の向上

- ・望ましい学校教育環境の整備
- ・GIGAスクール構想に基づくICT環境の充実
- ・学校施設の長寿命化や学校体育館への空調設備整備
- ・コミュニティスクールの導入
- ・部活動の地域展開に向けた検討

(7) 子ども未来館構想の推進

✓ (仮称) 子ども未来館の整備

- ・STEAM教育の視点を取り入れた楽しく学べる施設の整備
- ・学校や企業と連携した多様な体験機会の創出
- ・「発見・創造・発表」する力を育む場の提供

✓ 大阪・関西万博パビリオンの移築と活用

- ・「いのちの遊び場 クラゲ館」の移築と(仮称)子ども未来館の屋外フィールドとしての活用

(8) 魅力ある高等教育の提供

✓ 福山市立大学情報工学部の開設

- ・理系人材向けの進学の選択肢の充実
- ・企業の即戦力となるデジタル人材の育成

✓ 産学官連携の推進

- ・産学官連携による人材育成と地域課題の解決

(9) 若者のチャレンジ応援

✓ 若者の夢の実現を後押しするまちづくり

- ・(仮称)ふくやま未来大賞の創設
- ・福山夢・未来開花プロジェクトなど多様な体験機会の充実
- ・大学や企業と連携したキャリア教育の推進

【目標指標】

学力調査正答率40%未満の児童生徒の割合（全国平均との差）

【小学校 国語】

2025年度 ▲0.1ポイント
〔福山市 11.9% 全国 12.0% 〕

【小学校 算数】

2025年度 2.2ポイント
〔福山市 28.5% 全国 26.3% 〕

2030年度
全教科 0.0ポイント以下を維持

【中学校 国語】

2025年度 3.9ポイント
〔福山市 26.4% 全国 22.5% 〕

【中学校 数学】

2025年度 4.6ポイント
〔福山市 44.2% 全国 39.6% 〕

福山市立大学入学者のうち福山市出身者の割合

2025年度入学者 25.4% ▶ 2030年度入学者 増加

福山夢・未来開花プロジェクトの応募件数

2025年度 265件 ▶ 2030年度 500件

02 地域経済



(1) グリーンな企業プラットフォームの充実

✓ 働き方改革の推進

- ・長時間労働の是正と男性の育児休業の取得促進
- ・テレワーク・時短勤務などの多様な働き方の普及

✓ 意欲的・自律的に働くことができる職場づくり

- ・健康経営など人的資本経営の促進

✓ 学生と企業とのマッチング機会の充実

- ・地元学生を中心とした若者の市内企業の認知度向上

✓ 多様な人材の活躍促進

- ・障がい者・高齢者の就労促進
- ・外国人材の確保・定着支援
- ・大学や企業と連携したキャリア教育の推進（再掲）

(2) 企業の稼ぐ力の向上

✓ 企業の経営力強化

- ・生成AIなどデジタル技術の導入促進による生産性の向上
- ・海外を含めた販路開拓の支援

✓ ものづくり産業の競争力強化

- ・市内企業とベンチャー企業のマッチングによるイノベーションの創出
- ・ものづくりに携わる人材の育成など技術力の向上

(3) 新たな産業の創出

✓ 企業誘致の促進や起業・創業支援

- ・成長分野の企業誘致
- ・スタートアップの創出・育成
- ・事業承継支援

(4) 経済活動を支える基盤整備

✓ 慢性的な渋滞の解消

- ・福山道路（未事業化区間）と神辺水呑線の新規事業化（再掲）
- ・福山道路（事業中区間）、福山沼隈道路、福山西環状線の整備促進（再掲）

✓ 交通・物流ネットワーク機能の強化

- ・福山港と尾道糸崎港の機能強化（再掲）
- ・今津高西線と川南湯田村駅線の整備促進（再掲）

✓ 新たな産業用地の創出

- ・地域未来投資促進法を活用した産業用地の確保（再掲）
- ・新たな産業団地の造成に向けた取組（再掲）

【目標指標】

市内企業の従業員定着率

2025年度 71.4%

▶ 2030年度 76.4%

事業従業者一人当たり純付加価値額

2020年 438万円
〔 広島県 480万円 〕

▶ 2030年 広島県と同水準

誘致企業指定件数（累計）

2021年度～2025年度 34件
(12月末時点暫定値)

▶ 2026年度～2030年度 45件

(5) 農林水産業の振興

✓ 農林水産業の稼ぐ力の向上

- ・担い手の確保・育成
- ・農水産物などの新たなブランド価値の創造
- ・地産地消の推進
- ・農地の集積・集約化などによる生産性の向上
- ・福山地方卸売市場の再整備に対する支援
- ・道の駅「アリストぬまくま」の再整備

✓ 農地・森林の保全と有害鳥獣対策

- ・里山・里地の保全活動の支援
- ・森林整備の推進
- ・荒廃農地対策の推進
- ・有害鳥獣対策の強化

✓ 海洋環境の改善

- ・海底耕うん・かき殻散布
- ・漁場保全緊急対策の推進（藻場の保全などへの支援）
- ・新技術の導入や研究機関の誘致の検討



【道の駅「アリストぬまくま】



【南部地域の観光資源の例】

(6) 戰略的な観光振興とMICEの推進

✓ 観光資源の発掘・磨き上げ

- ・体験型観光プログラムの開発・実施
- ・食による観光プロモーションの実施
- ・ナイトタイムエコノミーの推進

✓ 周遊観光の推進

- ・備後圏域全体の魅力を生かした広域観光の推進
- ・南部地域をモデルエリアとした周遊観光の推進

✓ インバウンド誘客の促進

- ・外国人観光客の受入環境の整備
- ・インバウンド向けプロモーションの展開

✓ MICEの積極的な誘致

- ・福山城などユニークベニューの利用促進
- ・MICEボランティアの組織化・育成

【目標指標】

担い手への農地集積面積

2024年度 246.2ha ▶ 2030年度 395.0ha

総観光客数

2024年 5,556千人 ▶ 2030年 7,850千人

03 都市基盤



(1) 福山駅周辺のにぎわい再生

✓ 福山駅前広場の再整備

- ・交通結節機能と都市の広場機能が融合した都市空間の形成

✓ 伏見町周辺エリアを始めとするウォーカブルエリアの魅力向上

- ・エフピコR i M 2階の活用などビジネスチャンスが生まれる拠点の創出
- ・誰もが歩いて回遊できる動線の強化による人中心の空間への転換
- ・エリアプロデュースとエリアマネジメントの推進

(2) 全世代交流型エリアの創造

✓ 多様な世代のニーズに応える魅力ある施設の整備

- ・(仮称) まちづくり支援拠点施設の整備(再掲)
- ・(仮称) 子ども未来館の整備(再掲)
- ・大阪・関西万博パビリオン「いのちの遊び場 クラゲ館」の移築(再掲)
- ・五本松公園の再整備

✓ 福山駅前との回遊性の向上

- ・全世代交流型エリアと福山駅前を結ぶ自動運転バスの商用運行(再掲)



【福山駅前広場実証実験の様子】



【大阪・関西万博パビリオン
「いのちの遊び場 クラゲ館」】

(3) 地域の拠点づくり

✓ “地域の拠点づくり”の本格始動

- ・みんなでつくる神辺駅西側のまち
- ・みんなで考える松永駅北口のまち
- ・人と人とがつながる「かわ」を生かしたまちづくり
- ・道の駅アリストぬまくまと海を生かした南部地域のにぎわいづくり
- ・駅家公園から元気で暮らしやすい駅家エリアへ

✓ “地域の拠点づくり”の取組の波及

- ・“地域の拠点づくり”に取り組む人材の育成と人材間の交流・連携の促進
- ・取組状況などの情報発信
- ・先行するエリア以外への取組の波及

✓ 大学・企業との連携促進

- ・地域資源を活用した商品開発やイベントの実施

【目標指標】

福山駅周辺のウォーカブルエリア内の歩行空間の割合

2024年度 約57% ➡ 2030年度 約67%

地域の拠点づくりにおける意見交換会などへの参加者数

2025年度 539人 ➡ 2030年度 増加
(12月末時点暫定値)

（4）地域公共交通の充実

✓ 路線バスの維持

- ・バス共創プラットフォームによるバス路線の再構築
- ・乗務員確保のための支援

✓ 鉄道の利用促進と利便性向上

- ・駅のバリアフリー化の推進
- ・沿線自治体と連携した利用促進策の実施

✓ 多様な移動手段の確保

- ・自動運転バスの商用運行の実現
- ・オンデマンド乗合タクシー導入地区の拡大



【自動運転バス】



【神辺水呑線】

（5）市民生活と経済活動を支える基盤整備

✓ 慢性的な渋滞の解消

- ・福山道路（未事業化区間）と神辺水呑線の新規事業化
- ・福山道路（事業中区間）、福山沼隈道路、福山西環状線の整備促進

✓ 交通・物流ネットワーク機能の強化

- ・福山港と尾道糸崎港の機能強化
- ・今津高西線と川南湯田村駅線の整備促進

✓ 新たな産業用地等の創出

- ・地域未来投資促進法を活用した産業用地の確保
- ・新たな産業団地の造成に向けた取組
- ・福山港内港地区の埋立ての検討

【目標指標】

地域公共交通（バス）の利用者数

2024年度 3,702千人 ➡ 2030年度 4,420千人

04 医療・福祉



(1) 医療提供体制の確保

✓ 福山市民病院の機能強化

- ・周産期母子医療センター開設に向けた整備
- ・がん医療・救急医療・高度専門医療の機能強化

✓ 備後圏域内における医療機関の連携促進

- ・産科セミオープンシステムによる周産期医療連携体制の構築
- ・圏域内の公立病院への医師などの派遣

✓ 医療人材の確保・育成

- ・医療版ワーケーションや大学医学部などとの連携による医師確保
- ・看護体験や看護学生就職相談会の実施などによる看護師確保の推進

✓ 健康危機管理体制の強化

- ・予防接種の推進や検査体制の強化による感染症予防・まん延防止施策の推進
- ・感染症に関する正しい知識の普及・啓発
- ・食品の製造・加工・調理段階における監視指導の実施



【福山市民病院の完成イメージ図（2032年度 再整備完了）】

(2) 高齢者の健やかな暮らしの確保

✓ 健康寿命の延伸

- ・出前講座やSNS配信などによるフレイル予防の啓発と取組の推進
- ・健康アプリの利用促進などによる健康づくりと民間活力を活用した介護予防（ふくやまSHINKAプロジェクトなど）の推進
- ・認知症に対する理解促進と予防・早期発見の推進

✓ 地域包括ケアシステムの深化

- ・学習機会や通いの場の充実などによる生きがいづくりと社会参加の促進
- ・暮らしの安心につながる生活支援体制の強化
- ・介護人材の確保やデジタル技術の導入促進などによる安定的な介護サービスの提供

【目標指標】

医師偏在指標（小児科医師・分娩取扱医師）

2022年 全国下位1/3 ➡ 2030年 全国下位1/3からの脱却

[小児科 84.4
分娩取扱 7.6]

健康寿命

2023年 男性 80.11年
女性 85.00年 ➡ 2030年 男性 80.48年
女性 85.32年

（3）障がいのある人の安心な生活と自立支援

✓ ライフステージに応じた支援

- ・相談支援体制の充実
- ・障がい福祉サービスの適正な実施
- ・家族の負担を軽減するレスパイト支援の強化

✓ 自己実現に向けた支援

- ・障がい者の就労機会の確保
- ・障がいについての意識啓発と理解促進



【障がい者の就労支援】

（4）セーフティネットの充実

✓ 保険制度の健全な運営

- ・後発医薬品の使用拡大などによる医療費の適正化
- ・収納率向上対策の推進

✓ 複雑化・複合化した課題への対応

- ・生活困窮者などへの自立に向けた支援
- ・重層的支援体制の整備
- ・ひきこもりの方やその家族への支援の充実

【目標指標】

障がい者就労者数

2025年度 4,225人 ➡ 2030年度 5,000人

国民健康保険税の現年分収納率

2024年度 93.75% ➡ 2030年度 94.29%

05 ばらのまちづくり・文化・スポーツ



(1) 世界バラ会議を契機とした新たなばらのまちづくり

✓ 世界バラ会議福山大会レガシーの発展

- ・公共空間等へのばらの植栽やガーデンツーリズムの推進などによる「ばらであふれるまち」の更なる魅力向上
- ・Rose & Peace教育などによる平和を願う「ばらのまちづくりの歴史・ローズマインド」の継承
- ・「ばらを愛する多くの市民」の活躍の場の充実
- ・MICEボランティアなど「国際会議を成功に導いたまちの力」を生かした更なるMICE誘致の推進（再掲）

(2) 歴史・文化の薫るまちづくり

✓ 歴史・文化資源の保存と活用

- ・福山城の伏見櫓や筋鉄御門、新市の吉備津神社本殿、鞆の沼名前神社能舞台の国宝化に向けた取組
- ・地域と連携した文化財の保存・活用の推進

✓ 鞆のまちづくりの推進

- ・町並みの保存
- ・東西交通・交流拠点の整備
- ・観光と暮らしが両立するための交通などの対策

✓ 文化・芸術活動の促進

- ・ばらのまち福山国際音楽祭やオーケストラ福山定期など質の高い文化・芸術の提供
- ・ふくやま美術館など文化施設の改修

(3) スポーツの振興

✓ スポーツ機会の充実

- ・ライフステージに応じたスポーツの実施促進
- ・観るスポーツの機会の提供やふくやまスポーツ祭の充実などによるにぎわいづくり
- ・指導者のスキルアップなどによるジュニア世代を中心とした競技力の向上

✓ スポーツ環境の充実

- ・スポーツ施設の計画的な再整備



【ばらの苗の植栽】



【福山城伏見櫓】

【目標指標】

街中に咲き誇るばらを誇りに思う市民の割合

2024年 29.5% ▶ 2030年 65.5%

市の芸術文化施設・郷土歴史施設の延べ利用者数

2024年度 580千人 ▶ 2030年度 629千人

市のスポーツ施設の延べ利用者数

2024年度 1,006千人 ▶ 2030年度 1,250千人

06 地域社会



(1) 地域の拠点づくり（再掲）

✓ “地域の拠点づくり”の本格始動

- ・みんなでつくる神辺駅西側のまち
- ・みんなで考える松永駅北口のまち
- ・人と人とがつながる「かわ」を生かしたまちづくり
- ・道の駅アリストぬまくまと海を生かした南部地域のにぎわいづくり
- ・駅家公園から元気で暮らしやすい駅家エリアへ

✓ “地域の拠点づくり”の取組の波及

- ・“地域の拠点づくり”に取り組む人材の育成と人材間の交流・連携の促進
- ・取組状況などの情報発信
- ・先行するエリア以外への取組の波及

✓ 大学・企業との連携促進

- ・地域資源を活用した商品開発やイベントの実施

(3) 多様性社会の推進

✓ 人権教育・人権啓発の推進

- ・幼児・児童・生徒の発達段階に応じた人権教育の推進
- ・啓発や相談体制の充実
- ・人権侵害に対する救済・支援

✓ 多文化共生の推進

- ・多文化共生地域連携推進協議会などの開催を通じた総合的な施策推進
- ・外国人の日本語学習機会の充実
- ・生活相談体制の充実
- ・オリエンテーションとアウトリーチによる支援

✓ ジェンダーギャップの解消と固定的な性別観に関するアンコンシャス・バイアスの変革

- ・家庭や学校、地域での啓発の推進（再掲）
- ・企業経営層の意識改革（再掲）

(2) 持続可能な地域コミュニティの形成

✓ まちづくりネットを中心とした新たなコミュニティづくり

- ・まちづくりネットによる地域コミュニティが抱える課題解決の支援
- ・先進的に取り組む地域の創出や横展開
- ・各種ボランティアの活躍促進に向けた制度構築
- ・市民活動団体や企業、大学といった多様な主体の参画促進
- ・自治会（町内会）加入の促進
- ・デジタル技術の活用などによる地域自治組織の負担軽減
- ・（仮称）まちづくり支援拠点施設の供用開始を契機としたまちづくり活動の促進

✓ 交流館の整備

- ・地域活動の中心となる交流館の計画的な整備

【目標指標】

地域の拠点づくりにおける意見交換会などへの参加者数（再掲）

2025年度 539人 ➡ 2030年度 増加
(12月末時点暫定値)

地域の活動に参加している市民の割合

2024年 62.8% ➡ 2030年 65.0%

生活で困ったことがないと回答した外国人の割合

2024年度 41.9% ➡ 2030年度 65.0%

(4) 環境に配慮したまちづくり

✓ 脱炭素社会の構築（気候変動対策）

- ・省エネルギー対策と再生可能エネルギーの普及促進
- ・グリーンな企業プラットフォームを通じた環境に配慮した取組の拡大
- ・熱中症対策の推進
- ・ブルーカーボンの創出など温室効果ガスの吸収源対策の推進

✓ 循環型社会の構築

- ・3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進
- ・廃棄物の適正処理の推進
- ・民間活力の導入等による廃棄物処理施設の整備

✓ 地域環境の保全と自然共生社会の構築

- ・大気・水・土壤など生活環境の保全
- ・希少野生動植物の保護や外来生物対策の推進

✓ 持続可能な社会を担う人づくり

- ・次世代エネルギーパークを活用した学習・教育・啓発の推進
- ・出前講座や環境関連施設見学の実施



【Clean up 大作戦】

(5) 快適な生活環境の整備

✓ 良質な住環境の確保

- ・子育て世帯や高齢者が暮らしやすい市営住宅の再整備
- ・空き家の除却・活用支援と管理意識の啓発などによる発生予防
- ・住宅や都市機能の立地適正化の推進
- ・動物愛護の推進

✓ 公園・緑地の整備

- ・地域が主体となった魅力ある公園づくり
- ・街路樹再整備など緑化の推進

✓ 道路・橋りょうなどの生活インフラの整備

- ・地域のニーズを踏まえた生活道路の整備
- ・通学路の安全対策
- ・道路や橋りょうの適切な保全
- ・水路等転落事故防止対策の強化

【目標指標】

温室効果ガス排出量

2021年度 27,520千t-CO2 ➡ 2030年度 17,298千t-CO2

危険空家等正棟数（累計）

2024年度 1,302棟 ➡ 2030年度 2,200棟

※今後の福山市空家等対策協議会での議論を踏まえて設定



(1) 防災・減災の推進

✓ 強靭なインフラ整備

- ・河川等の改修や雨水幹線・雨水ポンプ場の整備など浸水対策の推進
- ・住宅や大規模建築物などの耐震化の促進
- ・道路や橋りょう等の予防保全型の維持管理などによる老朽化対策
- ・ため池の安全対策の強化

✓ 地域防災力の強化

- ・自主防災組織の強化と防災リーダーの育成
- ・防災意識の向上と避難支援体制の整備
- ・デジタル技術を活用した防災・減災の推進

✓ 避難所の環境改善

- ・災害備蓄品の充実と防災備蓄拠点の整備
- ・基幹緊急避難場所となる学校体育館の空調整備
- ・多様性に配慮した避難所体制の構築

(2) 上下水道施設の整備

✓ 老朽化対策・災害対策の強化

- ・地震などの災害に強い管路や施設の整備
- ・主力浄水場の更新・耐震化
- ・雨水幹線・雨水ポンプ場の整備（再掲）

(3) 消防・救急体制の強化

✓ 消防対応力の強化

- ・訓練場や消防車両など消防施設等の充実
- ・近隣消防本部との連携協力の推進
- ・消防団員の人材育成

✓ 救急体制の充実

- ・救急業務の迅速化・円滑化の促進
- ・#7119※の運用などによる救急搬送の適正利用の促進

※急病時などに救急車を呼ぶかどうかの判断や応急手当のアドバイスを行う電話相談窓口

(4) 防犯・交通安全対策の推進

✓ 防犯対策と消費者トラブルの未然防止

- ・地域コミュニティにおける防犯体制の強化
- ・消費者教育・啓発の推進

✓ 交通安全対策

- ・交通安全教室などによる意識啓発の推進
- ・自転車や歩行者の通行空間の整備による安全確保

【目標指標】

3日分以上の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合

2024年 40.5% ➡ 2030年 70.0%

基幹管路の耐震適合率

2024年度 78.2% ➡ 2030年度 81.8%

#7119の人口10万人当たりの問合せ件数

2024年度 1,360件 ➡ 2030年度 3,320件

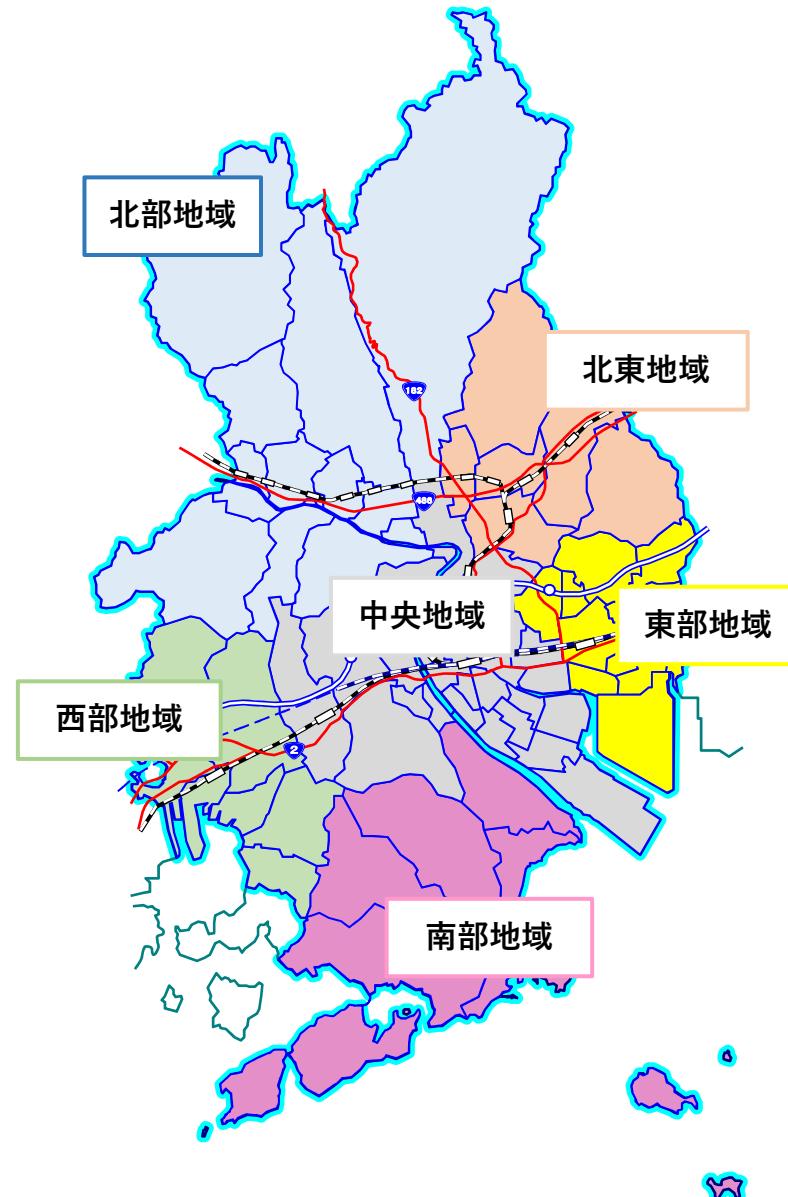
刑法犯認知件数

2024年 2,689件 ➡ 2030年 2,200件

3 地域別のまちづくり

めざす姿の実現に向け、地域の特性を踏まえたまちづくりを進めていきます。（図表26・27）

図表26：6地域のエリア分け



図表27：地域別人口推計

	2020年	2050年（推計）
中央地域	189,305人	167,711人（約11%減）
東部地域	87,064人	64,093人（約26%減）
西部地域	39,667人	35,040人（約12%減）
南部地域	33,694人	20,553人（約39%減）
北部地域	67,161人	52,908人（約21%減）
北東地域	44,039人	43,365人（約2%減）

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づく独自推計

※端数処理を四捨五入により行っていることから、地域別の合計と全市人口が一致しない場合があります。

(1) 各地域の概要とまちづくりの方向性

中央地域

- 福山駅を中心とした交通結節機能のほか、福山城や美術館、リーデンローズ等の歴史・文化機能なども備えている備後圏域の玄関口です。また、ばら公園や大学、エフピコアリーナふくやまなども立地しており、市内外から人や企業をひき付ける拠点性と求心力のあるエリアをめざしていきます。
- 福山駅周辺においては、福山駅前広場の再整備に着手とともに、ウォーカブルエリアの魅力向上に取り組みます。また、旧体育館跡地においては、(仮称)まちづくり支援拠点施設や(仮称)子ども未来館などの整備を進め、エフピコアリーナふくやまや芦田川かわまち広場なども含めた一帯を多様な機能を持つ全世代交流型エリアとして創造します。これらを福山の新たな未来を創造する都心核としていきます。
- 幹線道路における慢性的な渋滞の解消をめざし、福山道路等の整備や神辺水呑線などの新規事業化を促進していきます。

東部地域

- JR山陽本線や山陽自動車道、幹線道路などが通る交通の利便性が高い地域である一方で、高度経済成長期の住宅需要の高まりから造成された団地では住民の高齢化が進行しているため、買い物や移動といった日常生活サービス機能を充実していきます。
- 備後圏域の基幹病院である福山市民病院の機能強化や圏域の食生活の安心・安全を支える福山地方卸売市場の再整備の支援に取り組みます。
- 蔵王ポンプ場の整備や雨水幹線の供用開始により、浸水被害の軽減につなげてきます。

西部地域

- 木材関連産業などが集積した地域であり、山陽自動車道や国道2号が通るなど、高い物流機能も有しています。物流の更なる効率化をめざし、尾道糸崎港では大型船の入港が可能となるよう泊地の浚渫を行ふとともに、幹線道路や港湾へのアクセスの向上に向けて今津高西線の整備を推進していきます。
- 松永駅では多くの乗降客がいる一方で、周辺に滞在する人が少なく、空洞化が進んでいます。地域内に大学が立地し、学生が多いという利点を生かしてにぎわい再生に取り組んでいきます。
- 多くの外国人住民が居住しており、多文化共生による地域づくりを進めます。

南部地域

- 県内有数のぶどうの産地であるほか、漁業や造船業など多様な産業を有する地域です。また、潮待ちの港として栄え、歴史あるまちなみが残る鞆の浦を始め、阿伏兎観音などの観光資源が集積しており、市内外からの多くの人を呼び込む魅力ある地域づくりを進めています。
- 鞆の沼名前神社能舞台の国宝化に向けた取組など歴史・文化資源の保存・活用のほか、サイクリングやマリンアクティビティなどの体験型観光の充実、鞆未来トンネルや現在整備を進めている東西交通・交流拠点を生かした周遊観光の促進に取り組みます。
- 沼隈ではアリストぬまくまの再整備を進めていくとともに、内海では海洋環境の改善を通じた漁業による地域振興に取り組みます。
- 市内の地域の中で今後最も人口減少が進むと見込まれる地域であり、生活支援の強化や河川・海岸等の整備などにも取り組みます。

北部地域

- 備後絆の発祥の地であり、備後圏域の基幹産業の1つである繊維産業が集積している地域です。また、国宝化に向けた取組を進めている備後一宮吉備津神社や素戔鳴神社のけんか神輿、古墳、砂留などの歴史・文化資源のほか、動物園や恵まれた自然環境も有しております、これらの資源を組み合わせたにぎわいづくりを進めています。
- 福山北産業団地を始めとする地域内に立地する企業の生産性を向上するとともに、地域住民の安心・安全な暮らしを守っていくため、福山西環状線を始めとする道路網の整備に取り組みます。
- 特認校と地域が一体となってこどもを支える地域づくりも進めます。

北東地域

- 子育て世帯が多く、人口規模を維持していくことが見込まれる地域です。生活基盤の整備や公共空間を活用したにぎわいづくりにより、更なる発展をめざしていきます。
- 神辺本陣や廉塾の保存・活用のほか、地域住民が後世に継承すべき「宝」として認定する神辺遺産の取組など、歴史・文化を生かした地域づくりを進めます。
- 半導体や繊維などの製造業が集積しており、更なる企業誘致の推進や道路網の整備に取り組んでいきます。

(2) 各地域の主なまちづくりの取組

各地域の特性を踏まえ、本ビジョンの計画期間において進める主な取組は次のとおりです。

- 福山駅周辺と全世代交流型エリアを一体として、中心市街地からにぎわいを更に高め、都市の発展をけん引する都心核の形成をめざしていきます。
- 現在、住民が主体となり、地域の魅力向上をめざす意見交換の場が6地域で立ち上がっています。様々な切り口から先行的に取り組む6つの地域の拠点づくりを進めていくとともに、他の地域にも取組を広げ、市域全体の発展をめざしていきます。 (図表28)
- 都心核や地域の拠点を結ぶネットワークを構築するため、公共交通網や幹線道路網の整備を進めます。

図表28：各地域の主な取組





VI ビジョンの推進に当たって（市政運営方針）

以下の5つを市政運営の基本に据え、果斷に挑戦していきます。

スピード感

変化の激しい社会に適応するため、速やかに政策・施策へ反映

情報発信

伝えたい対象に伝わり、行動変容を促す戦略的な情報発信

連携

備後圏域内の市町のほか、国や県など多様な主体と連携し、質の高い行政サービスを提供

現場主義

市民の声を受け止め、市民と地域が主役となるまちづくり

成果主義

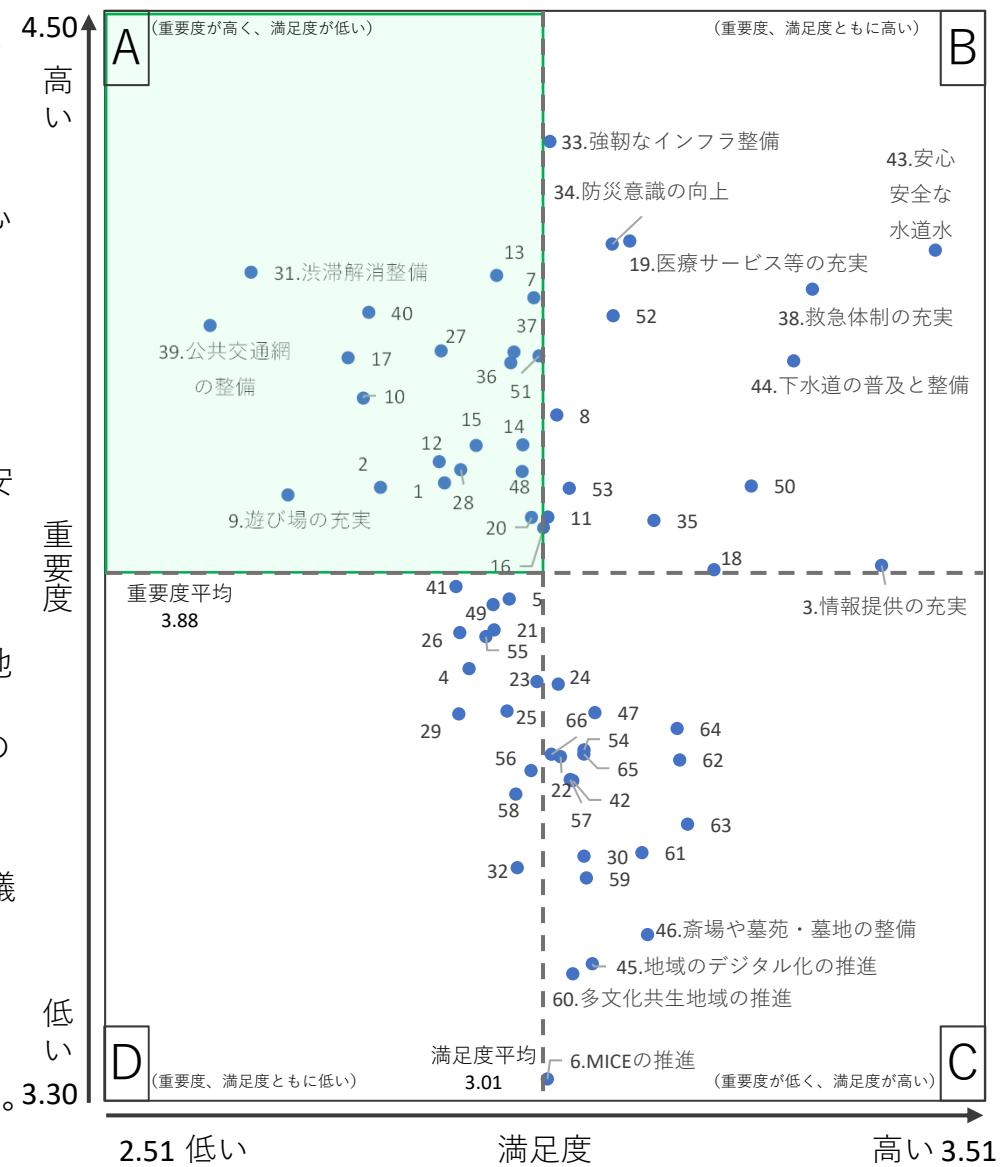
目的やめざす姿、目標指標を掲げて施策を実施

VII 参考（ビジョンの策定に当たっていただいた意見）

1 市民意識調査

- 18歳以上の市民を対象としたアンケート調査を実施し、市民意識の把握を行い、福山市役所のサービスに対する市民の満足度・重要度について、アンケート結果から数値化しました。（図表1・2）
- 重要度が高く満足度が低い項目（Aの領域）としては、「市内のバスや鉄道など利用しやすい公共交通網の整備」や「渋滞の解消につながる幹線道路の整備」「中心市街地（福山駅周辺）の活性化」「各地域の活性化」といった都市基盤に関する項目を始め、「子どもの遊びの場の充実」などの子ども・子育て支援や「高齢者の外出や買い物などの生活支援の充実」などの高齢者支援があり、重点的に取り組む必要があります。
- 満足度の高い項目（B・Cの領域）としては、「安心・安全な水道水の安定供給」「市の広報やホームページなどによる情報提供の充実」「消防や救急体制の充実」などがあり、これまでの取組が一定程度評価されています。
- 重要度が高い項目（A・Bの領域）としては、「豪雨や地震などの災害に屈しない強靭なインフラ整備」「病院などの整備や保健・医療サービスの充実」「地域防災力の強化や防災意識の向上」などがあり、市民満足度の向上に向けて取り組んでいく必要があります。
- 重要度が低い項目（C・Dの領域）としては、「国際会議の開催などM I C E の推進」「多文化共生の地域づくりの推進」「交流館へのスマートロックの導入や電子回覧板など地域のデジタル化の推進」などがあります。これらの項目は、市民の理解と協力を得て取組を実施していく、その効果をしっかりと発信していく必要があります。

図表1：行政サービスに対する満足度・重要度



※図中の番号は、次ページを参照

図表2：アンケート項目一覧

【Aの領域（21項目）「特に重点的に取り組む必要がある領域」】

NO	項目
1	中心市街地（福山駅周辺）の活性化
2	各地域の活性化
7	医療費助成など子育てにかかる経済的負担の軽減
9	子どもの遊びの場の充実
10	仕事と子育ての両立支援
12	子どもの貧困対策や児童虐待防止対策など援助を必要とする子どもや家庭への支援
13	介護サービスの充実
14	高齢者の健康づくり
15	認知症対策の推進
16	高齢者の生きがいづくりや社会参加の促進
17	高齢者の外出や買い物などの生活支援の充実
20	障がい福祉サービスの充実
27	雇用の安定と促進
28	企業による働き方改革の促進
31	渋滞の解消につながる幹線道路の整備
36	詐欺や危険商品などの情報提供や消費者保護
37	犯罪や非行に対する防犯活動など地域の安全対策の推進
39	市内のバスや鉄道など利用しやすい公共交通網の整備
40	市道などの身近な生活道路の整備
48	大気・水質などの環境保全
51	質の高い学校教育の推進

【Dの領域（13項目）】

NO	項目
4	市の知名度の向上につながる情報発信力
5	観光の振興
21	社会的セーフティネットの維持（国保制度、生活保護制度など）
23	企業へのデジタル技術（AIなど）の活用促進
25	起業・創業や事業承継支援
26	小売業・卸売業などの商業活動の振興
29	農林水産業の振興
32	港湾の整備
41	公園や緑地の整備
49	森林や農地などの保全
55	学校以外の学びの場（施設）の整備や機会の充実
56	生涯学習や学びなおしを行うための施設整備や講座などの充実
58	まちづくりに対する市民参加・意見聴取の機会の充実

【Bの領域（14項目）】

NO	項目
3	市の広報やホームページなどによる情報提供の充実
8	保育所などの受け皿整備や病児・病後児保育などの保育サービスの充実
11	妊娠・出産・子育てに関する相談体制の充実
18	感染症対策の強化
19	病院などの整備や保健・医療サービスの充実
33	豪雨や地震などの災害に備しない強靭なインフラ整備
34	地域防災力の強化や防災意識の向上
35	交通安全活動の充実
38	消防や救急体制の充実
43	安心・安全な水道水の安定供給
44	下水道の普及と整備
50	ごみの減量・リサイクルの推進
52	安心・安全で快適な学校施設の整備
53	青少年の健全育成活動の推進

【Cの領域（18項目）】

NO	項目
6	国際会議の開催などMICEの推進
22	繊維、木工、機械金属などの地場産業の振興
24	鉄鋼業などの基幹産業の振興と新たな基幹産業の育成・誘致
30	産業の基盤となる工業団地の整備や産業用地の確保
42	住宅や住宅地の整備
45	交流館へのスマートロックの導入や電子回覧板など地域のデジタル化の推進
46	斎場や墓苑・墓地の整備
47	再生可能エネルギーの利用と省エネルギー化の促進による脱炭素社会の実現
54	大学・研究機関の機能充実や研究開発基盤の整備
57	持続可能な地域コミュニティの形成
59	多様性社会・人権問題・平和に関する活動・教育・環境整備
60	多文化共生の地域づくりの推進
61	交流館など地域の拠点となる施設整備や機能の充実
62	文化活動を行うための施設整備や情報・機会の提供
63	地域の歴史・文化資源の保存と活用
64	スポーツ・レクリエーション活動を行うための施設整備や情報・機会の提供
65	近隣市町との連携（広域連携）
66	民間企業との連携

2 こども・若者からの意見

こども・若者の声を都市づくりに反映していくため、ワークショップの実施などにより中学生から30歳代までの市民から直接意見を伺いました。

【こども・若者とのまちづくりに関するワークショップ】

○福山市の課題について

- ・歩道や自転車用の道路が狭くて危ない
 - ・バスや電車の便数が少なく、車がないと移動が不便
 - ・商業施設・娯楽施設が少ない
- など

○福山市のめざす姿について

- ・福山の魅力であるばらを発信し、多くの人が訪れるまち
 - ・交通が便利で多くの人でにぎわうまち
 - ・きれいで快適に生活できるまち
- など

【市内大学生へのヒアリング】

○就職先を選ぶ際に重視していることについて

- ・福利厚生や休日の多さ、休みの取りやすさ
 - ・家族がいる地域と勤務場所が近いこと
 - ・心理的な安全性が確保され、人間関係が良好な職場
- など

○福山市の課題について

- ・商業施設・娯楽施設が少ない
 - ・バスや電車の便数が少なく、車がないと移動が不便
 - ・アーティストのライブなど興行が少ない
- など

【市内企業で働く若手従業員へのヒアリング】

○働き方について

- ・ワーク・ライフ・バランスが重要
 - ・仕事と子育ての両立ができるか不安
 - ・スキルアップする機会を増やしたい
- など



【こども・若者とのまちづくりに関するワークショップ】

3 有識者からの提言

総合計画等策定に係る有識者会議 議論の経過

- より専門的な知見をビジョンの検討に取り入れていくため、有識者から本市の現状も踏まえた提言をいただきました。

2025年7月4日

- 現行総合計画の評価及び今後の方向性について

2025年8月19日

- 今後の進め方について
- めざす姿（案）と政策の方向性（案）について

2025年9月29日・10月14日

- 委員からのプレゼンテーション

2025年11月10日

- 提言書（案）について

有識者一覧		※敬称略、肩書きは当時
池本 美香		(株) 日本総合研究所 上席主任研究員
柴田 悠		京都大学大学院 人間・環境学研究科教授
末富 芳（座長）		日本大学 文理学部教育学科教授
長谷川 良二		福山市立大学 都市経営学部都市経営学科教授
裴 崗		リマークジャパン(株) 代表取締役社長
堀口 正裕(※)		(株) 第一プログレス 代表取締役社長

※2025年10月24日 退任

有識者からいただいた主な意見

- 少子化対策は、共働き・共育てができる環境整備を行うことが重要。このため、デジタル技術の導入による企業の働き方改革を促進し、長時間労働を是正するとともに、企業の価値を高め、若者や女性に選ばれる企業を増やしていくことが必要。
- 企業の稼ぐ力と市民の所得を高めていくためには、生産性向上が必要。業務効率化を進める“守りのDX”と新たなアイデアやビジネスを創出する“攻めのDX”に取り組むことが重要。
- こども・若者・女性のウェルビーイングを高めるためには、困難を抱えるこども・若者に寄り添った支援を行うとともに、当事者の声を聴き、政策に反映させていくことが必要。
- インクルーシブの視点も取り入れて、児童生徒の多様な学びを充実させていくことが必要。
- 地域で生産するものをその地域で消費する「地産地消」の視点ではなく、地域で消費するものをその地域で生産する「地消地産」の視点が重要であり、地域の経済循環とサプライチェーンを強化していくことが必要。

福山市民憲章

私たちは 恵まれた自然の中に育った 福山の市民です
私たちの福山市は たくましい市民の不屈の精神によって築かれ
大きく発展しつづけている希望の町です
私たちは 福山市民であることに誇りと責任をもち お互いのしあわせをねがい
よい市民となるために市民憲章を定め 心のよりどころとします

- 1 心に太陽をもち 胸をはって元気に働きましょう
- 1 小さな親切を 勇気をもって行いましょう
- 1 きまりを守り よい習慣をつくりましょう
- 1 子どもたちのために 明るい家庭と美しい町をつくりましょう
- 1 文化を育て 健康で平和な社会を築きましょう
- 1 人権を尊重し 差別のない人間関係をつくりましょう

制定 1966年(昭和41年)11月3日 改定 1983年(昭和58年)4月1日

市 章



制定 1917年(大正6年)7月1日